



〈雑録〉経済上商船ノ進歩ヲ論ズ(1)

渡邊, 水太郎

(Citation)

経済學商業學國民經濟雜誌, 1(5):701-708

(Issue Date)

1906-10

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051070>



經濟上商船ノ進歩

ヲ論ズ(其一)

商業學士

渡邊水太郎

第一章 商船ノ進歩ニ關スル概念

商船ナル文字ハ古クヨリ世人ノ一般ニ使用シツ、アル處ノモノナリト雖モ、其ノ眞ニ獨立セル一船型ヲ形成スルニ至レルハ頗ル近代ノ事ニ屬ス。

抑モ古代人文ノ尙頗ル幼稚ナリシ時代ニアリテハ、各種族ハ常ニ互ニ干才ヲ事トシ、現今吾人ノ見聞スルガ如キ平和的關係ニ於テ商業交易ヲ營ミタル事頗ル稀少ノ事例アリトイハザルベカラズ。

From the fact that during the earlier development of society the prevailing state of things is a state of war, we have the

corresponding fact that the means of transportation have marked military character. (Cooley; the theory of Transportation, p. 45)

殊ニ海上貿易ニ於テハ極メテ近代ニ至ルマデ一大冒險事業トシテ常ニ海賊ノ襲來、沿岸蠻民ノ奪略等ニ備ヘザルベカラザリシヲ以テ、船舶ハ悉ク砲門ヲ備ヘ船員ハ勇士ノ如ク武裝セリ。

(Lindsey; History of merchant shipping and Ancient Commerce. Bk I. Ch. ii) 此ノ如キハ近ク十八世紀ニ至ルモ尙依然トシテ行ハレタルモノニシテ、彼ノ歐洲各國ニ起リタル東印度會社ノ貿易船ガ常ニ海上ニ於テ互ニ奮闘ヲ事トシタルハ、普テク史家ノ知ル所ナリ。

The merchant seaman of the eighteen century was compelled not only to know how to "hand, reef, and steer," but to be expert in the use of great guns, and of musket, pike, and cutlass. (W. L. Marvin; The American merchant marine, p. 12)

然ルニ後諸國ノ貿易漸ク開ケ、商業交通ノ發達、海上航行ノ安全トヲ加フルニ從ヒ、商船ハ次第ニ特殊ナル船型ヲ有スルニ至リ、戰艦トハ

大ニ其ノ趣ヲ異ニスルニ至リタルモノナリ。

然レドモ商船ガ明カニ戰艦ト區別セラレ、純平タル企業經營トシテ専ラ平和的航海ヲ開始スルニ至レルハ、余輩之ヲ十九世紀ニ於ケル産業革命以後ナリトイフ事ヲ得ベシ。蓋シコノ革命ニヨリ從來ノ經濟關係ハ一變セラレテ世界經濟ノ端ヲ啓ラキ、商船ハ全ク權力關係ヲ離レテ、利益關係ノ方則ニヨリテ支配セラル、ニ至リタルヲ以テナリ。商船ノ經營上ヨリ見タル進歩ニ就テハ、他日更ニ稿ヲ更メテ詳論スルノ機會アルベシ。

商船ノ進歩ハ更ニ之レヲ(一)技術的の方面及ビ(二)經濟的の方面ノ二點ヨリ觀察スルコトヲ得ベシ。

技術的の方面ヨリ見タル商船ノ進歩トハ、船體、機關等ニ關スル技術上ノ發達ヲ指稱スルモノニシテ、如何ニシテ船舶ハ堅牢トナラシムベキ乎。如何ニシテ速力ヲ迅速ナラシムベキ乎等ノ造船學上ノ考察點ニ歸着ス。之レニ反シ經濟的の方面

ヨリ見タル商船ノ進歩トハ、船舶航海ノ經濟的價值ノ發達ヲ意味スルモノニシテ、各時代ニ於ケル船舶ノ容積(大サ)、速力等ガ其時代ノ經濟狀態ト如何ナル關係ヲ有シタルヤヲ研究スルモノナリ。例ヘバ近時船舶噸數ノ増加ハ各國ニ於テ最モ著名ナル事例ナリトス。甲國ニ於テ一萬噸ノ汽船竣工スレバ、乙國ニ於テハ一萬五千噸ノ船舶進水セラレ、丙國ニ於テハ更ニ二萬噸ノ大船ヲ構造ストイフ有様ナリ。而シテ巨大汽船ノ進水アル毎ニ各國ノ新聞紙ノ如キハ競フテ、其華美、宏壯ヲ記述シ自國造船業ノ發達ヲ誇稱スルニ過ギズ。然リト雖モ此ノ如キ船舶噸數ノ増加ハ經濟上何等カノ意義及ビ理由ヲ有セザルベカラズ。若シ各國ガ巨大汽船ヲ築造スルヲ以テ、單ニ榮譽ノ表彰ニ過ギズトセバ、何ンゾ五萬噸六萬噸ノ大汽船ヲ構造シテ世界ノ耳目ヲ驚嘆セシメザル乎。之レ實ニ吾人ガ研究セント欲スル所ノ問題ニシテ、船舶ノ大サニ對シ經濟的說明ヲ加ヘ其ノ程度及ビ發達ノ傾向ニ就テ經濟

的暗示ヲ與ヘント欲スルモノナリ。其他速力ニ關シテ然リ、運賃ノ低廉、航海ノ瀕繁及ビ確正等ニ就テ然リ。

然リト雖モ商船ノ經濟的進歩ヲ講究スルニ當リ、全ク其技術的觀察ヲ度外視スル事能ハザルモノアリ。何ントナレバ、一方ニ於テハ經濟上ノ進歩ハ其技術的發達ヲ促進シ、他方ニ於テハ其技術的發達ハ商船ノ經濟的價值ノ上ニ著シキ變動ヲ與フルモノナルヲ以テナリ。彼ノ十九世紀ニ於ケル產業貿易ノ發達ハ終ニ蒸汽船ノ發明ヲ完成セシメタル如ク、或ハ表面冷却器(Surface Condensation)ノ發明(複合暗車(Multiple Screw)ノ應用ハ、石炭ノ消費ヲ減ジ船舶ノ航走速力ヲ大ナラシメタル如キ之レナリ。此ノ如ク兩者ノ間ニハ密接ナル關係ヲ有スルモノナルヲ以テ、余輩ハ經濟上ノ研究ヲ爲スニ當リ、常ニコノ技術的方面ニ關スル注意ヲ怠ルコト能ハザルモノナリ。

既ニ述ベタル如ク經濟上ヨリ見タル商船ノ進

歩トハ其經濟的價值ノ進歩ナリ。而シテ商船ガ經濟上ニ有スル最モ大ナル價值トハ、其時代ニ於ケル經濟狀態ニ最モ適應セル機關ナル事ノ謂ナリ。故ニ技術上ニ進歩シタル商船ト雖モ、未ダ必ズシモ經濟上ノ價值ノ進歩アリタルモノトイフ事ヲ得ズ。此ノ理論ハ單ニ商船ノ場合ノミニ止マラズ、一般經濟上ノ機關ニ就テ見ル所ニシテ、例ヘバ銀行、取引所ノ制度ノ如キハ現今ノ經濟界ニ於ケル最モ重要ナル機關ノ一ニシテ一日モ缺クベカラザル制度ナリト雖モ、文化ノ進歩尙頗ル幼稚ニシテ、各人皆孤立經濟ヲ營ミツ、アリシ時代ニアリテハ、此ノ如キ機關、制度ノ價值ハ全ク皆無ナリシナリ。又例ヘバ今日吾人ガ發明ノ極致ト迄嘆稱スル無線電信、潛行水艇ノ如キモ、單ニ特殊ナル軍事上ノ目的ニ使用セラル、ノミニシテ、其ノ經濟上ニ於ケル價值ハ吾人未ダ之ヲ認メザルナリ。

然ルニ近時一般ニ商船ニ關シ、不當ナル觀念ヲ抱クモノ多シ。不當ナル觀念トハ商船ノ經濟

的價值ヲ測定スルコトナクシテ、單ニ船舶ノ噸數ノ大ナルコト、航走速力ノ迅速ナル事、船内設備ノ華美整頓セル事等ノミヲ觀察シテ、其ノ宏大壯美ニ眩迷シ、直チニ之ヲ以テ一般海運業ノ進歩、或ハ一國ノ海上商業ノ勢力ヲ判定セントスルガ如キ之レナリ。余輩ト雖モ之ヨリ船舶ノ技術的發達ヲ希望セザルニアラズ。又國際貿易ノ發達ハ當然已上ノ大ナル進歩ヲ惹起スルモノナルコトヲ信ゼリ。然レドモ徒ラニ船舶ノ宏大ヲ競ヒ其速力ノ大ナルヲ喜ブガ如キ思想ノ流行ニ對シテハ、余輩ハ極力之レガ反對ヲ試ミザルヲ得ズ。

之ヲ要スルニ商船ハ常ニ其時代ニ於ケル經濟的進歩ノ程度ニ應ジ、最モ溫健ナル基礎ノ上ニ發達スル事ヲ要スルモノニシテ、徒ラニ技術ノ如何ヲ以テ其ノ價值ヲ測定スルコト能ハザルモノナリ。

余ハ屢々「商船ノ價值」ナル文字ヲ使用セリ。商船ノ價值トハ商業上航海ニ從事スル船舶ニヨ

リテ運搬セラレタル物貨ノ運賃負擔力ト運送費用トノ差額ニ、其ノ物貨ノ量ヲ乘ジタル實ナリトス。換言スレバ商船ノ航海ニヨリテ受クル所ノ一般公衆ノ利益、及ビソノ船主ニ與フル經濟的收益ノ總稱ナリ。コハ海運ノ客觀的性質及ビ主觀的性質ヨリ生ズル當然ノ理論ナルニ世人往々ニシテ前者ニノミ重キヲ置キ、運賃ノ低廉ナルコトヲ以テ、商船ノ價值ヲ測定セントスルモノナリ。然リト雖モ海運業ガ既ニ一ノ獨立セル企業經營トシテ存在スル以上ハ、其ノ經濟的收益モ亦一般公衆ノ利益ト同ジク、商船ノ經濟上ノ價值トシテ論ズベキモノナリトス。此點ニ關シテハ後ニ運賃ノ章ニ於テ更ニ詳論セント欲ス。

第二章 商船ノ進歩ノ原因

抑モ海運ハ其一面ヨリ見レバ經濟上ニ於ケル物貨移轉ノ一運送手段ナリ。即チ海運ノ存在ハ貨物運搬ノ必要アルガ爲メニ存在シ、貨物ノ交易ナケレバ即チ海運ノ必要モ亦消滅セザルヲ得

ズ。元ヨリ海運ノ進歩ハ一面ニ於テハ商業交易ノ發達ヲ促ガシ相依ツテ以テ社會進歩ノ誘因ヲ爲スモノナリト雖モ、然モ何レノ時代ニアリテモ經濟進歩ノ程度ヲ離レテ、單獨ニ進歩セル商船ノ存在スルコトヲ見ルモノニアラズ。コハ歷史上ノ事實ノ明カニ吾人ニ教ユル處ニシテ、若シ卓越セル技術家生レ、架空ノ如キ新發見ヲ爲スコトアリトスルモ、經濟的價值ニシテ皆無ナラン乎。其ノ技術モ終ニ失敗ニ歸セザルベカラズシテ徒ラニ歷史上ノ一遺蹟トシテ後人ノ話題トナルニ過ギザルベシ。

海運ハ常ニ商業貿易ノ發達ト其步調ヲ同ジクセザルベカラズ。即チ文化ノ程度尙頗ル幼稚ニシテ、物貨移轉ノ數量頗ル僅少ナリシ時代ニアリテハ之レニ要スル商船ノ大サハ頗ル倭小ニシテ足ルベク、又其航海度數ノ如キ頗ル稀少ニシテ足ルベキナリ。之レニ反シ國際關係益々密接トナリ。海上貿易ノ高愈々増加シ、且ツ商業組織ノ進歩ハ敏活ナル海上機關ヲ要スルニ至リテ

ハ、最早昔日ノ如キ幼稚ナル小船ヲ以テハ其需要ニ充ツルニ足ラズ、航海ノ頻繁、船舶噸數ノ増大、速力ノ迅速等ノ必要ヲ生ジ來ルナリ。

此ノ如クニノ海運發達ノ最モ主要ナル原因ハ社會ニ於ケル經濟ノ發達、貿易ノ進歩ナリト云フヲ得ベシ。換言スレバ或時代ニ於ケル商船ハ其經濟的價值ニヨリテ決定セラル、モノナリ。

余ハ商船ノ經濟的價值ト其進歩トノ關係ヲ更ニ詳述シ、以テ商船ノ發達ノ原因ヲ明カナラシメント欲シ、一ノ代數式ヲ提出セントス。今貨物ノ運賃負擔力(或ハ學者之ヲ運送ノ價值ト稱ス)ヲ V トシ之レニ要スル運送費用ヲ C トシ、之レガ爲メニ運搬セラル、物貨ノ量ヲ M ナリトセンカ、前章ニ論述シタル如ク其商船ノ經濟的價值ハ、

$$(V-C) \times M$$

ナリトス。今コノ代數式ニ於テ、其結果ヲ大ナラシメント欲セバ

(一) V ヲ増大スルカ

(二) C ヲ減少スルカ

(三) M ヲ増加スルカ

ノ三點ニ歸着スルモノナリトス。第一ノ運賃負擔力ヲ増大ナラシムル事ハ、全ク社會ノ產業組織ノ發達ニヨリ一般生産費ヲ低減セシメ、之レニヨリテ該貨物ニ對スル需要ヲ増加セシムルニヨリテ發生ス。第三ノ貨物運搬ノ量ヲ増加セシムルニハ二箇ノ原因ヲ有ス。(一)ハ經濟貿易ノ發達ニヨル物貨移轉ノ増加、及ビ(二)ハ運賃ノ低廉トナルコトニヨリテ一般貿易ヲ發達セシムルコト之レナリ。然リト雖モ運賃ノ低廉トナルコトニ就テハ自ラ一定ノ限界ヲ有スルモノニシテ、運送費用ノ減少セザル限りハ、コノ一定ノ限界ヲ下ルコト能ハザルモノナリ。從テ運送貨物ノ量ノ増加ハ殆ンド之ヲ經濟的發達ニ待タザルベカラザルモノトイフ事ヲ得ベシ(後章述ブル所ノ運賃ノ部ヲ參照スベシ)。コノ通商交易ノ發達、貨物運搬ノ量ノ増加ニヨリテ、商船ハ其噸數、速力、航海回數等ヲ増加スルノ必要ニ遭遇

スルモノニシテ、若シ物貨ノ量増加セザルニ獨リ船舶ノ技術的發達ノミヲ期センカ、此ノ如キハ單ニ運送費用ヲ増加セシムルノミニシテ却テ經濟的價值ヲ減少セシムルニ至ルベキナリ。

商船ノ經濟的價值ヲ増加セシムル第三ノ要素ハ運送費用ノ減少ナリ。而シテ運送費用ヲ減少セシムルハ一面商船ノ技術的發達（燃料ノ節約ヲ計ルガ如キ場合之レナリ）ニ待ツモノナリト雖モ、又船舶噸數ノ増加、航海日數ノ短縮、商船ノ經濟的支配等ニヨリテ運送費用ノ減少ヲ計ラザルベカラザルモノトス。（C. Colson ; *Transport et Tarifs* 關先生譯書自七七頁至八一頁參照）

歷史上ニ於ケル商船ノ進步ニツキ、技術的發達明ニヨリ其運送費用ヲ増加セシメタルニ拘ラズ尙ホソノ經濟的價值ヲ増加セシメタル場合多キハ、吾人ノ大ニ注意スベキ處ナリトス。例ヘバ蒸汽力ノ商船ニ應用セラレタルコトハ、従前ノ帆船ニ比シ著シク運送費用ヲ大ナラシメタルニ拘ラズ。蒸汽船ハ却テ帆船ヲ凌駕シテ、經濟上

重要ナル機關トナレルガ如キ之レナリ。然リト雖モコハ蒸汽船ノ航運ニヨリテ更ニ著シク運送貨物ノ量ヲ増加セシガ爲メ、結局汽船ノ經濟的價值ノ増大シタルニ過ギザルモノニシテ、寧ロ吾人ガ商船ノ發達ヲ以テ經濟ノ進步ニ伴ハザルベカラズトスル理論ノ好適例タルモノナリ。

之ヲ要スルニ商船ノ發達ヲ惹起スベキ主要ナル原因ハ通商交易ノ發達ナリ。通商交易ノ發達ナケレバ、更ニ進步シタル商船ヲ構造スルモ、經濟的價值ヲ減少スルノミニシテ必ズ失敗ニ歸スベキモノナリ。大厦ノ茅屋ニ勝ルハ言ハズシテ明カナリ。然レドモ一農夫ニシテ之ヲ以テ其住家トスル者アラバ、是レ徒ラニ無稽者タルノ紀念ヲ永世ニ遺スモノナリ。ロツシヤール曰ク、人工運送方ハ或ル程度ノ開化ニ於テ其必要ヲ看ルガ如ク、其發生モ亦或程度ノ開化ニ於テ始メテ之レアリ。若シ夫レ人口稀疎ニシテ尙低度ノ開化ニ位シ交通未ダ振ハザル國ニ於テ巨額ノ費用ヲ擲ツテ坦々タル道路ヲ開鑿シ、日々急行列

車ノ往復ヲ爲サシムル等ノ事アラシカ、吾人ハ之ヲ評シテ不適當ナリト言ハザルヲ得ズト(ロ

ツシヤ―商工經濟論第十編第七十六章參照)

然ルニ之レニ關シテ一ノ謬見ヲ抱クモノアリ。即チ一派ノ自由主義學說ヲ奉ズル學者ハ、社會萬般ノ進歩發達ヲ以テ自由競爭ニ基クモノナリトナシ、商船ノ場合ニ就テモ其發達ヲ以テ海運業者間ノ競爭ニ歸因ストナスガ如キ之レナリ。然リト雖モ海運業者ノ相互的競爭ハ、其ノ運賃ノ競爭ナルト設備ノ競爭ナルトヲ問ハズ單ニ一時ノ現象トシテ現ハル、ニ過ギズシテ、通商交易ノ發達ガ之等ノ競爭ヲ調和シ得ザル範圍ヲ超エテハ、却テ商船ノ經濟的價值ヲ減少セシムルニ過ギザルモノナリ。(以下次號)

一 トリエスト、コンスタンチノープル間

二 トリエスト、サロニカ、コンスタンチノープル間

三 トリエスト、スミルナ、コンスタンチノープル間